

宮城県猛禽類生息状況調査報告書  
(環境影響生物基礎調査)

平成 28 年 1 月

宮城県環境生活部自然保護課

# 目 次

はじめに

第 1 章 調査概要 .....	1-1
1.1 調査目的.....	1-1
1.2 調査対象地域 .....	1-1
1.3 調査期間.....	1-3
1.4 調査対象種 .....	1-3
1.5 調査内容.....	1-19
1.6 宮城県猛禽類保護・保全対策検討会 .....	1-20
第 2 章 文献調査結果.....	2-1
2.1 調査概要.....	2-1
2.1.1 生息情報地域.....	2-1
2.1.2 営巣地位置の情報 .....	2-1
2.1.3 前回調査結果.....	2-1
2.2 調査結果.....	2-2
2.2.1 イヌワシ .....	2-4
2.2.2 クマタカ .....	2-8
2.2.3 オオタカ .....	2-12
2.2.4 サシバ.....	2-16
2.2.5 ミサゴ.....	2-19
2.2.6 ハヤブサ .....	2-24
2.2.7 オジロワシ .....	2-28
2.2.8 オオワシ .....	2-31
2.2.9 チュウヒ .....	2-34
2.2.10 ハチクマ .....	2-37
2.2.11 ツミ .....	2-40
2.2.12 ハイタカ .....	2-42
2.2.13 チゴハヤブサ.....	2-46
第 3 章 現地調査結果 .....	3-1
3.1 調査概要.....	3-1
3.1.1 調査対象種及び調査時期.....	3-1
3.1.2 調査方法 .....	3-2

3.2 調査結果.....	3-21
3.2.1 イヌワシ.....	3-21
3.2.2 クマタカ.....	3-24
3.2.3 オオタカ.....	3-29
3.2.4 サシバ.....	3-36
3.2.5 ミサゴ.....	3-41
3.2.6 ハヤブサ.....	3-48
3.2.7 オジロワシ.....	3-53
3.2.8 オオワシ.....	3-55
3.2.9 チュウヒ.....	3-58
3.2.10 ハチクマ.....	3-62
3.2.11 ハイタカ.....	3-64
第4章 生息情報分析結果.....	4-1
4.1 調査概要.....	4-1
4.2 分析方法.....	4-2
4.2.1 文献調査及び現地調査結果による現状把握.....	4-2
4.2.2 特定種の詳細な生息環境分析.....	4-3
4.3 分析結果.....	4-17
4.3.1 イヌワシ.....	4-17
4.3.2 クマタカ.....	4-39
4.3.3 オオタカ.....	4-48
4.3.4 サシバ.....	4-60
4.3.5 ミサゴ.....	4-70
4.3.6 ハヤブサ.....	4-75
4.3.7 オジロワシ.....	4-79
4.3.8 オオワシ.....	4-83
4.3.9 チュウヒ.....	4-87
4.3.10 ハチクマ.....	4-103
4.3.11 ツミ.....	4-106
4.3.12 ハイタカ.....	4-108
4.3.13 チゴハヤブサ.....	4-112

4.4 県内における猛禽類の生息現況の総括.....	4-114
----------------------------	-------

第5章 保護・保全施策の提言.....	5-1
5.1 猛禽類保護・保全の現状.....	5-1
5.1.1 社会的背景.....	5-1
5.1.2 宮城県におけるタカ目・ハヤブサ目鳥類の生息状況.....	5-3
5.1.3 宮城県における猛禽類の調査実施状況.....	5-4
5.2 宮城県における猛禽類保護・保全の方向性及び課題.....	5-11
5.2.1 宮城県における猛禽類保護・保全の基本方針.....	5-11
5.2.2 種ごとの保護・保全施策.....	5-17
5.2.3 主体ごとの果たすべき役割.....	5-37
5.2.4 開発事業との調整.....	5-40
5.2.5 営巣地情報の取り扱いについて.....	5-48
5.2.6 県民に対する情報共有・教育・普及啓発について.....	5-48

## 引用文献

本報告書で示す陰影図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号 平 27 情使、第 759 号)

## はじめに

宮城県では、県内に生息する希少な猛禽類の生息状況を把握し、適正な保護管理対策を講ずる基礎資料とするため、平成8年に初めて猛禽類を対象とした全県レベルでの生息調査に着手し、平成12年に「宮城県猛禽類生息調査報告書」（以下「前回調査報告書」という。）をとりまとめました。その後、全国的に猛禽類に関する各種調査が広く実施されたほか、個体に発信器などを装着した学術的な生態調査などが実施され、猛禽類に関する知見の蓄積が急速に進みました。

一方、各種開発事業における環境影響評価の実施が普及し、生態系の頂点に立ち環境の影響を受けやすい猛禽類が評価の保全対象として選定される事例が多くなり、事業影響の予測や保全措置検討のための詳細な調査が実施され、調査方法や情報解析、保全措置の技術も大きく向上しました。しかし、調査などで得られた情報は事業者単位で管理されており、県内に生息する猛禽類の保護・保全に資する情報として包括的にとりまとめられる機会はありませんでした。

宮城県内の自然環境に目を向けると、自然度の高い森林環境は奥羽山脈を中心に広く残存し、平野部には伊豆沼・内沼や蕪栗沼などの自然湖沼が点在しています。しかし、少子高齢化や生活様式の変化などに伴い、特に人為的な管理により維持されてきた里地里山の環境変化が急速に進んでいます。また、木材価格の低迷等により森林の更新が停滞しているほか、中山間地域を中心に耕作放棄地も増えており、こうした環境に依存する猛禽類の中には危機的な状況になりつつある種もいます。さらに、平成23年3月に発生した東日本大震災では、巨大津波や地盤沈下により沿岸部の環境が大きく変化したほか、その後、広範囲で復興事業や再生可能エネルギー関連事業が進められており、県内に生息する猛禽類が置かれている状況は厳しさを増しています。

また、猛禽類に関わる法的な枠組みにも変化が生じています。平成23年の「環境影響評価法」の改正に伴い、計画段階で環境への影響の回避低減を検討する「配慮書」プロセスが追加されたことにより、首長意見を提出する機会が増えています。また、平成24年12月には環境省の「猛禽類保護の進め方」が最新知見を盛り込んで改訂されています。さらにオオタカについては、生息状況に改善が見られるなどの理由で「種の保存法」に基づく国内希少野生動植物種の指定解除が検討されています。

本調査は、前回調査報告書の発行から10数年が経過し、猛禽類を取り巻く状況が大きく変化する中で、今後実施される多くの開発事業等に係る環境への影響を計る際の基礎資料として活用していただくことを目的として、宮城県が東北緑化環境保全株式会社に委託し、「宮城県猛禽類保護・保全対策検討会」の監修の下、平成26年度から2か年をかけて実施したものです。本調査では、県内で実施された各種調査の結果集約に努める一方、県内における猛禽類の生息状況の再確認を行い、自然的・社会的背景の変化を踏まえて保護・保全施策を立案しました。

最後に、報告書のとりまとめに際し、数々の御指導・御助言を賜りました「宮城県猛禽類保護・保全対策検討会」の構成員の皆様にご心よりお礼申し上げますとともに、調査に御協力いただいたすべての皆様へ深く感謝申し上げます。

平成28年1月

宮城県環境生活部長 佐野 好昭